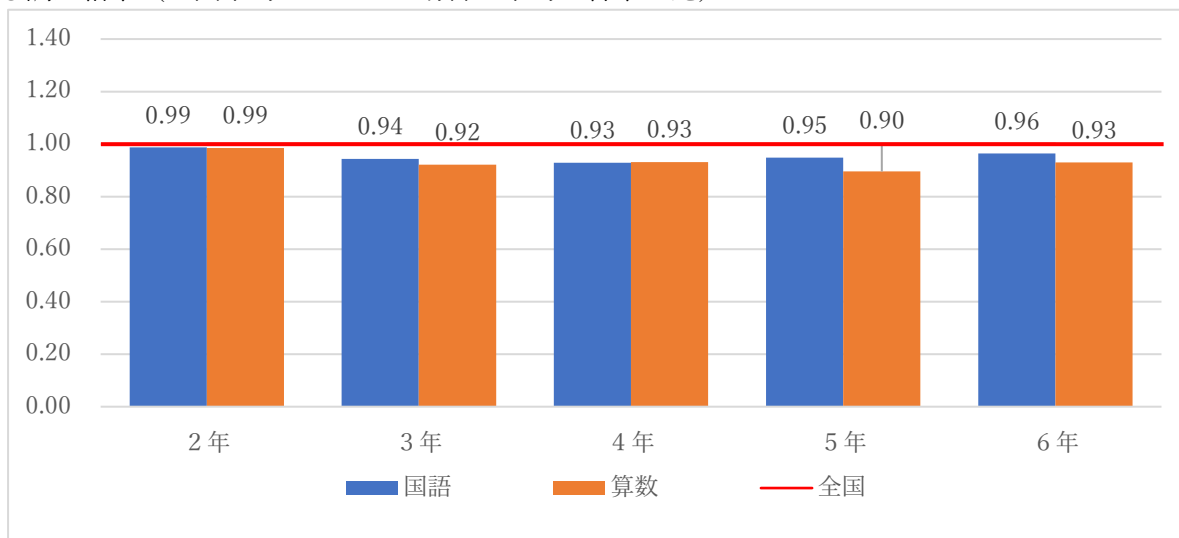


令和5年度 全国学力・学習状況調査及び学習到達度調査について

第二中学校区 桜小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

学習到達度調査	国語	「条件に合わせて書くこと」については全国平均を上回る結果であったが、漢字の書きに課題がみられたため、漢字の定着に取り組んでいく。
	算数	基礎的な学習内容の定着が十分でなかったため、基礎定着のための時間を日課内に新たに設け、学校全体で取り組む。
全国学力・学習状況調査	国語	図表などの情報の扱い方に関する事項に弱さがみられた。図表などから必要な事項を読み取るなど、さまざまな形態の教材について丁寧に学習を行う。
	算数	「二つの数量の変化と関係」において全国値を超えているが、図形において課題がみられた。具体物を自分で操作する活動や言語で表現する活動を増やしていく。
	質問紙	「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりする」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の設問に肯定的に回答した児童が全国平均を下回っていた。現在取り組んでいるディベートや授業での話し合う活動をさらに深めていく。

○学力向上の取組

【 中学校区 】

- ・寝屋川方式の学習を基に、毎回の授業に対して「真心の授業」を実践する。
- ・校区学力部会で各種学力テスト及び質問紙等の分析を行い、結果と課題を共有する。
- ・分析結果を利用した課題克服の手立てを共有し、主体的な学習者の育成をめざす。
- ・家庭学習の定着と自主学習の推進に取り組む。
- ・校区3校の公開授業を実施し、9年間のカリキュラムに基づく教科指導の充実を図る。

【 学 校 】

- ・基礎的な事柄の定着を図るための朝学習の取組
- ・各種学力調査結果の分析から弱さを補う授業の工夫
- ・読書に親しむ習慣を身につけるための手立ての実施